

Ⅰ．教育目標と教育方針

教育のトライアングル ～学校・保護者・地域で育てる西中の子～

子どもが育つ基盤は、学校・家庭・地域にあります。

子どもの生活場所は、大きくなるにつれ、家庭から学校へ、学校から地域・社会へと広がります。成長する過程において、それぞれの環境が大切な基盤となります。それぞれがスクラムを組み、我が町の誇れる学校、誇れる子どもの健全なる育成を目指し、三者が一体となって地域の教育力を基盤に西中学校の生徒を育てます。

西中学校では次のような目標を掲げ、その目標達成のため、様々な教育活動を展開します。

学校教育目標

「進んで学び行動する生徒、みんなが輝く元気な学校」

1. 進んで学び、学習に集中できる子どもの育成
2. 豊かな心を持ち、互いに他を尊重しあう子どもの育成
3. 強い意志を持ち、最後までやり遂げる子どもの育成
4. 自ら鍛え、たくましい身体の子どもの育成

教員の指導心得（指導のポイント）

- 自己表現できる子どもの育成
しっかり挨拶のできる子どもを育てる
自分の思いや意見、考えを自分の言葉で伝えられる力を育てる
原稿なしでの発言、訴えのできるリーダーを育てる
- みんなが安心できる成熟した集団の育成
普段の生活や授業、部活動、様々な行事を通して、他に対する思いやりや優しさを育て、
集団としての団結力や絆を構築する

教職員の合言葉（子どもに対する姿勢、心得）

「誰もが安心できる、笑顔が溢れる学校」

生徒は違った生育歴を持っています。また、人はひとりとして、同じ性格で同じ能力を持ち同じ環境で育ったものはいません。そんな生徒たちが毎日安心できる場所が学校でなければいけません。どんな生徒でも学校に来ればホッとできる空間が学校です。そのためには、教職員が同じ歩調で、丁寧に温かく対応し、時には厳しさ（優しさ）を持って育てます。

教育方針

1. 生徒理解を根底に据え、全教育活動を通して生徒に学ぶ喜びを体得させる。
2. 基礎基本の確実な定着とともに、学習指導方法の工夫・改善を行い、よくわかる授業の確立に努め、生徒に確かな学力を身につけさせる。
3. 人権尊重の精神を基盤に、好ましい人間関係を醸成するとともに、教育活動全体を通じて人間性豊かな生徒の育成を図る。
4. 教師と生徒、生徒と生徒の心の触れ合いを通して、互いに尊重し合い、高めあう生徒たちの仲間づくりを行う中で、すべての生徒に成長の喜びを体得させる。
5. 学校・家庭・地域との緊密な連携を図り、家庭・地域とのネットワークを構築し、学校を中心とした教育コミュニティづくりを推進し『信頼される学校づくり』を目指す。
6. 生徒が将来の夢を持ち、その夢を実現するために互いに励まし合い努力し合える生徒の育成を目指す。

具体的な施策

1. 小中一貫教育を積極的に進めます。

- ・シンキングツールを取り入れた授業改革に取り組み、考える力を育てるようなプログラムを通して思考力を高めます。
- ・小中合同で協力して、年一回、英検にチャレンジする機会を設定します。
- ・いじめ未然防止の取り組みである「BE A HEROプロジェクト」を3校で実施し、いじめのない思いやりのある児童生徒を育てます。
- ・ウォーキングゲーム・ふれあいボーリングなどの行事に参加し、地域の諸団体と連携して、健全な子どもの育成に努めます。
- ・生徒会と児童会が連携して、あいさつ運動や義援金募集や校則について検討していきます。
- ・小学校から「ふるさと学」を取り入れ、わが町を愛する子どもを育てます。
- ・中学校の教員が小学校へ乗り入れ授業を行います。 中→小 音 英
- ・小・中生活指導連絡会を月1回開催し、支援学級担当者会議を学期に1回開催します。
- ・小・中連携コーディネーター会議を月1回開催し、校区校長会も随時開催します。
- ・学校便り等をホームページにアップし、地域全戸配布することで広く理解を求めます。
- ・3校合同研修会・支援学級交流・養護教諭交流をします。

2. 学習指導の充実に努めます。

- ・校務分掌を編成し直し、新たに学習指導部を設け学習指導の充実に努めます。
- ・3年計画で国語力の向上を行います。教科の枠を超え、教科指導・学年学級経営・学校行事・生徒会委員会活動・部活動などあらゆる教育活動の中で、国語力の向上を行います。「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「表現する力」に関して、1年目「読む力」「表現する力」2年目「聞く力」「考える力」3年目「書く力」について、重点的に高めていけるように工夫します。

3. 英語教育を積極的に進めます。

- ・義務教育終了段階で、自分の考えや意見を英語で伝えられる子どもを育てます。
- ・中学校英語教員・小学校英語担当・NET(外国人)に学識者を加えて英語教育推進会議を行い、新学習指導要領を見通し、教育課程、指導方法、評価に関する研究開発を行います。
- ・英語公開授業及び講演会を開催し、英語教育の充実に努めます。
- ・中学校英語教員が小学生の英語の授業を応援します。

4. 学校支援地域本部を西中学校に置きます。

- ・教職員だけの力では、子どもたちのニーズに対応できないことを十分認識し、「学校・保護者・地域で子どもを育てる」をモットーに広く保護者や地域の応援を求めています。教育に熱い思いを持った保護者や地域の方々と学校が協働し、地域総掛かりで子どもたちを育てます。また、小学校にできたコミュニティースクールの活動をリードします。
- ・花壇ボランティア・図書館ボランティア・部活動支援ボランティア・授業支援ボランティア等様々なボランティアの方々に学校で活動し、支援していただきます。

- ・ウォーキングゲーム・ふれあいボーリングなどの行事は、保護者や地域の方々とより一層連携して進めます。
- ・定期テスト一週間前の学習支援ボランティアを積極的に募集します（西中ゼミ）。
- ・地域主催の行事（ふれあい清掃、ふれあい活動等）に、積極的に参加するよう啓発や協力をします。

5. 部活動を通して人間教育をします。

- ・部活動を通して、礼儀を重んじ、人を思いやる心を持つ子どもを育てます。また、この趣旨に十分理解して下さる外部人材を募集し、部活動をより一層活性化させます。中学生にとっては、同じ目標に向かって共に励まし協力しながら取り組む部活動は人間形成の上でも重要と考えます。学校生活の上でも重要な位置を占めます。勝利至上主義でなく、学校教育としての部活動を目指します。
- ・部活動支援ボランティアを積極的に活用します。
- ・週1回のノークラブデーを設け、生徒の健康管理に努めます。試合1週間前の部活動時間は確保できるよう配慮します。
- ・スポーツクラブは、現在、運動部は女子バスケ・女子テニス・男子バスケ・男子テニス・陸上、文化部は美術があります。今年度は以上の部活のほかにスポーツサークルを創設し、入部率のアップに努めます。
- ・部活は全員顧問制を敷き、さらなる活性化を図ります。また、生徒の入部率が上がるよう呼びかけます。

6. 相談体制（相談室、SC活用、HA活用、カウンセリング等）を充実させ、いじめの早期発見、早期対応・解決し、不登校に対して最大限サポートします。

- ・毎週金曜日に専門職（臨床心理士）のスクールカウンセラー（SC）を配置し、子どもや保護者、教員の相談に応じ、サポート体制をとっています。
- ・各学期に担任によるカウンセリング期間を設け、子どもが担任とじっくり話ができる時間を確保し、いじめ・体罰・セクハラ等早期発見早期対応解決します。また、別にいじめ・体罰・セクハラ対応する窓口教員を設定しています。
- ・校長室前に相談箱を設置し、子どものサイン（いじめ・体罰・セクハラ等）を受け止めます。
- ・ハートフルルームを設置し、生徒支援員（ハートフルアシスタント）により、生徒のための相談機能を充実させます。

7. 学ぶ意欲の向上を目指し様々な取組みにより学力向上を目指します。

- ・放課後学習教室（西中ゼミ）を開設しています。
定期テスト一週間前の放課後に勉強時間を確保し、自学自習力を付け学力向上を目指します。
- ・子どもたちに、自主学习ノート（JJノート）を配布し、宿題以外の学習を奨励しています。
- ・朝読書を実施し、読解力の育成と集中力、心の教育を推進します。
- ・授業の「めあて」を明確にし、分かる授業を目指し、1時間1時間の授業を大切にします。
- ・各教科、言語活動を取り入れた公開授業を開催します。

8. 道徳教育の充実を図ります。

- ・道徳の授業時間年間 35 時間の確保と 22 の指導項目の授業を実施します。
- ・道徳の授業法の研究と各学年公開授業を実施します。
- ・道徳教育推進教員を中心に、道徳の教科化に向けた指導法や内容、評価の研究に努めます。

